2026 年 11 月 1 日　BMCN 年次大会　午後の部　発表要旨

多言語・多文化教育における沈黙の意味
―子どもの声、参加、異文化間コミュニケーションを再考する―

ユスティナ・ピラルスカ / Justyna Pilarska（ポーランド・ヴロツワフ大学）

多言語・多文化環境で育つ子どもの教育では、発話の頻度、応答の速さ、学校の主要言語における流暢さが、理解や参加の指標として扱われやすい。その結果、子どもの沈黙は、語彙や文法能力の不足、消極性、学習意欲の欠如として理解されることがある。しかし沈黙は、単一の意味をもつ行動ではない。状況によって、思考のための時間、慎重な聞き取り、教師や仲間への配慮、集団の調和を守る行為、複数言語間を移動するための処理時間、自己の言語的・文化的アイデンティティを守る方略となり得る。一方で、理解の困難、発話への不安、周縁化、参加機会の不平等を示す場合もある。

本報告の目的は、異文化間教育、対話的学習、高コンテクスト・低コンテクスト・コミュニケーション、および「子どもの声」に関する議論を手がかりとして、多言語・多文化教育における沈黙の教育的意味を再検討することである。特に、日本文化に関連して論じられてきた「間（ま）」、内／外（うち／そと）、間接的な意思表示などを、固定的な国民文化の特徴としてではなく、沈黙の意味が関係性と状況によって構成されることを考えるための概念的視点として用いる。「日本の子どもは沈黙する」といった文化本質主義的説明を避け、同じ沈黙でも、教室内の権力関係、言語能力、課題の形式、教師の問い方、仲間との関係によって異なる意味を持つことを示す。

分析の枠組みとして、①沈黙が生じた場面を価値判断なしに記述する「観察」、②言語的、関係的、制度的、文化的要因を含む複数の説明可能性を挙げる「脱中心化」、③子ども本人との対話や学習過程の記録を通して解釈を確かめる「探究」、④得られた理解に基づいて授業の参加構造を組み替える「再設計」という四つの段階を提示する。この枠組みは、教師が子どもの所属文化から行動の意味を推測するのではなく、具体的な教育関係の中で意味を共同的に確認することを重視する。

さらに、教師が沈黙を欠如として即断せず、その意味を丁寧に見極めるための実践的原則を提案する。具体的には、観察された行動とその解釈を区別すること、即答を求める前に個人で考えを書く時間を設けること、個人思考からペア、小集団、全体共有へと段階的に参加を広げること、口頭発表だけでなく文章、図、非言語的表現など複数の応答方法を認めること、子どもを公の場で指名して追い詰めるのではなく、個別の対話を通して沈黙の意味を確認することである。また、参加を発言回数だけで評価せず、傾聴、質問、他者の考えとの関連づけ、集団の結論への影響も含めて捉える必要がある。

こうした実践の効果は、単に発言量が増えるかどうかではなく、子どもが自分に適した方法で考えを表現できること、教師や仲間が最初の解釈を修正できること、少数の流暢な話者だけでなく多様な子どもの考えが集団の学習に影響を与えることによって捉えられる。発話中心の参加観を問い直すことは、多言語環境にある子どもの知識や能力を過小評価する危険を減らし、言語的公正と教育的ウェルビーイングを支えることにもつながる。

本報告は、沈黙を無条件に肯定するものではない。重要なのは、沈黙を「問題」あるいは「文化的美徳」として一律に扱うのではなく、反省的参加の可能性と排除の兆候の双方に開かれた問いとして捉えることである。この視点は、子どもの発話を強制せずに声を保障し、多様な参加経路を備えた包摂的な学習環境を設計するための基盤となる。

参考文献

Deardorff, D. K. (2006). Identification and assessment of intercultural competence as a student outcome of internationalization. Journal of Studies in International Education, 10(3), 241-266.
Dervin, F. (2016). Interculturality in Education: A Theoretical and Methodological Toolbox. Palgrave Macmillan.
Hall, E. T. (1976). Beyond Culture. Anchor Books.
Spyrou, S. (2016). Researching children's silences: Exploring the fullness of voice in childhood research. Childhood, 23(1), 7-21.

種別：研究報告
発表言語：英語